

# 令和6年度 訪問看護新人研修報告

日時：令和6年7月27日（土）  
13時30分～16時

場所：京都府医師会館6階603号室

「訪問看護の現状と課題、  
訪問看護に必要な制度、  
訪問看護での災害対策」

講師：医療法人葵会  
葵会総合ケアステーション  
訪問看護認定看護師  
寸田 初美 先生



開会挨拶：訪問看護ステーションたんぽぽ  
協議会副会長 田辺順子

本日は暑い中、会場15名、Zoom10名と多くの方に集まっていた  
いただきありがとうございます。

猛暑の中や、コロナの11波もあり、またゲリラ豪雨と大変なことが  
日々おありだと思えます。訪問看護の中でいろいろな悩み等も  
あると思えますので、今日の研修の中で、経験豊富な先生の話  
を聴いて沢山学び、また参加者の方々と活発な意見交換を行い、思  
い残すことなく交流していただけたらと思っています。

どうぞよろしくお願ひします。





## <目標>

- ・訪問看護に必要な制度を理解することができる。
- ・訪問看護での災害対策について、自施設の取り組みを考えることができる。

## 【講義】

先生の訪問看護の出会いまでのお話の中で印象深かったのが、ALSの利用者さんで、妻が介護されておりビールが好きだったので、胃ろうからビールを注入してもらっていたというケースだった。病院ではできないことが在宅生活ではでき、本人にとっても家族にとっても幸せだったのだろうと感じた。

### 1. 訪問看護の現状と課題

少子・高齢・多死社会となり、世帯構造も変化してきている。近年では老々介護、認認介護が増え、薬をセットしてもどこにいったかわからない、食事や排便の状況がわからない、などということも増えている。また親と未婚の子のみの世帯も増加しており、仕事しながらの介護の大変さ、一度仕事を辞めてしまうと経済的な影響が大きく、社会との接点がなくなり介護放棄になったりすることもある。

訪問看護事業所は増加傾向にあるが、5人未満の小規模なステーションが約65%を占めている。高齢化により、訪問看護利用者は医療・介護ともに増加、今後もますます増加していくと考えられている。看取りについては死亡場所として自宅が減少し、病院が増加している。老々介護や認認介護により自宅での看取りが困難になってきている一方、訪問看護利用者の死亡場所は半数以上が在宅となっている。

京都府の高齢化率は29.5%。看護師・准看護師数は32,930人であり、その内訪問看護従事者数は1,911人で割合としては2.5%である。全国平均は4%であるため、まだまだ低い数値である。

訪問看護の課題として

1) 利用者ニーズの増加、多様化、複雑化

小児、がん、神経難病、精神疾患等、また医療処置を必要とする利用者の増加により、それぞれの構造に合わせた適切な処置や対応が求められるため、限られた環境での臨機応変な対応が求められる。

2) 小規模事業所が多く業務が非効率、スタッフの負担が大きい、24時間対応の問題がある。

3) 訪問看護師の人材不足

4) 地域包括ケア体制への対応

住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らせるよう多職種での連携が必要になることがあげられる。

2. 訪問看護に必要な制度

訪問看護とは、訪問看護師の役割、訪問看護の保険制度、介護保険と医療保険の使い分けや訪問看護の依頼の流れについて、例題を交えながらわかりやすく教えていただいた。

3. 訪問看護での災害対策

事業所でのBCP作成が義務化され、その目的や対応方法について説明していただいた。訪問看護ステーションにおけるBCPの目的は、「災害時に職員の安全を確保しつつ、利用者の生命と生活を維持するために看護サービスの提供を継続させ、地域の医療・介護資源である訪問看護ステーションを存続させること」となっている。まずは自分たちの命を守ることを最優先し、自分の事業所だけでなんとかしようと思わないこと、日頃からの備えについて学ぶことができた。

【グループワーク】 ～5グループに分かれて話し合う～（前半・後半）

先輩訪問看護師に聞きたいことや訪問看護での経験談など、各グループにそれぞれファシリテーターがつき、話し合いを行った。その後各グループ2分程度で発表し、「特別指示書を出してもらえない時はどうすればいいか?」「ケアマネとの情報共有はどこまですればいいか?」「BCP連携に対して」などの質問、意見多く聞かれた。前半はみなさん緊張されていたように思われたが、徐々に緊張が解れ、それぞれの体験談や聞きたいことなど、どのグループも活発に意見が出ており、後半には笑顔も多く見られとても盛り上がっていた。





### 【寸田先生より研修のまとめ】

制度については難しいとの意見がありました。他にもさまざまな制度があり、「この病気だと入れるかな?」「どういったら負担をかけないように訪問できるかな?」など話し合い、相談しながら覚えていくのだと思います。訪問看護の経験が浅く不安ばかりという意見も多く聞かれました。それでも1時間を目の前の利用者さんのためだけに使えるなど、日々の些細な喜びもあり、それを大事にしながら訪問を続けていただけたらと思います。

多職種連携の不安については、訪問看護師として「利用者、家族にとってどうなのか」という視点で伝えていただいて、どのようにすれば在宅生活が続けていけるか考えていただけたらと思います。何年たっても不安はあります。経験したから良いこともあり、逆に慣れすぎて利用者さんにアドバイスしすぎて失敗したということもあるので、経験年数ではなく、利用者さんのことを思ってやっている看護は必ず通じていると思います。これからも訪問看護を続けていただきたいと思います。今日はありがとうございました。



### 【広報委員より】

訪問看護師になり、誰でも一度は経験する病院とは違うギャップや壁も、研修でお互いの気持ちや悩みを共有することで少しは乗り越えられたのではないかと思います。研修を受けて成長し、今後ますます活躍されることを期待したいと思います。